

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-16635

(P2021-16635A)

(43) 公開日 令和3年2月15日(2021.2.15)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 B 83/04 (2006.01)	A 4 7 B 83/04	3 B 0 5 3
A 4 7 B 17/00 (2006.01)	A 4 7 B 17/00	A 3 B 2 6 0
	A 4 7 B 17/00	C

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2019-134884 (P2019-134884)	(71) 出願人	000125990
(22) 出願日	令和1年7月22日 (2019.7.22)		株式会社くろがね工作所
			大阪府大阪市西区新町一丁目4番24号
		(72) 発明者	川村 俊哉
			京都府八幡市岩田南浅地44 株式会社く
			ろがね工作所 京都工場内
		Fターム(参考)	3B053 SA01 SA05 SC03
			3B260 AB01 AB04 AB07 AD01

(54) 【発明の名称】 組み合わせデスク

(57) 【要約】

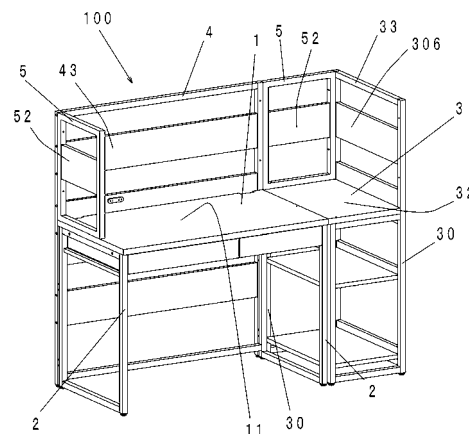
【課題】

本発明は、机と書棚を組み合わせて使用する組み合わせデスクに係り、簡単な構成で、書棚を独立して使用することも、デスクと書棚を組み合わせて使用することもでき、かつ、使い勝手がよい組み合わせデスクを提供することを課題とするものである。

【解決手段】

机と書棚と側板からなる組み合わせデスクにおいて、机は少なくとも天板を具備し、書棚には机天板の高さと同じ高さに設定される書棚天板を具備し、側板は、書棚天板の上方の左右側方寄りそれぞれに設置し書棚天板上方で書棚の左右の側板とする形態と、書棚から取り外し、机の天板上方で机の側板として設置する形態とで選択可能とする。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

主に机と書棚と側板からなる組み合わせデスクにおいて、机は少なくとも天板を有し、書棚は机天板の高さと同じ高さに設定される書棚天板を有し、側板は、書棚天板の上方の左右側方寄りそれぞれに設置され、書棚天板上方で書棚の左右の側板とされる形態と、書棚から取り外され、机の天板上方で机の側板として設置される形態とで選択可能とされることを特徴とする組み合わせデスク。

【請求項 2】

机と書棚は、それぞれ、天板上方に延出する背面パネル部を備え、側板は、該背面パネル部に連結されるとともに、机あるいは書棚の天板と連結され固定されることを特徴とする請求項 1 に記載の組み合わせデスク。

10

【請求項 3】

机と書棚のそれぞれの背面パネルと側板の上端面は、略同じ高さになるように設定されることを特徴とする請求項 2 に記載の組み合わせデスク。

【請求項 4】

書棚の側板は、前後方向に延びる水平部材を備え、水平部材にオプション部材を吊り懸け可能としたことを特徴とする請求項 1 に記載、あるいは請求項 2 に記載、あるいは請求項 3 に記載の組み合わせデスク。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

20

【0001】

本発明は、机と書棚を組み合わせる使用用途の組み合わせデスクに係り、詳しくは、使い勝手に応じてデスクと書棚を様々な体系に組み合わせ可能とする組み合わせデスク装置に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

家庭等の勉強部屋や書斎等の執務空間で使用される机において、学習効率の向上や、使い勝手の向上を目的として、学習に使用する書籍、参考書、教科書等を整理収納しておく書棚が、机に近接して置かれる場合がある。

そして、机の側方に書棚を配置し机と書棚を一体的に使用する組み合わせデスクが従前よりある。

30

【0003】

このような組み合わせデスクの中には、書棚を上下に分離して、分離した一方側の書棚を、書棚の正面側が机の側方に沿うように回転配置して、他方の書棚を机上の後端部に配置し、該書棚の側板を取り外し、あるいは、退避させ、机の側方に書棚の棚板と机上に配置した書棚の棚板を一体的に使用できるものがある（例えば特許文献 1）。

しかしながら、このような組み合わせデスクの場合、書棚の正面側を机の側面に沿うように回転させ、書棚を上下に分離して、分離した一方側の書棚を机上の後端に書棚の一部を載置する必要がある大掛かりなものであった。

【0004】

40

他方、机と書棚による組み合わせデスクの中には、同じく書棚を上下に分離して、分離した一方側の書棚を、書棚の正面側が机の側方に沿うように回転配置して、他方の書棚を机上の後端部に配置し、机の側方の書棚と机上の書棚間の隙間を板状の連結部材で閉塞するものがある（例えば特許文献 2）。

しかしながら、このような組み合わせデスクの場合、特許文献 1 と同様に書棚の正面側を机の側面に沿うように回転させ、書棚を上下に分離して、分離した一方側の書棚を机上の後端に書棚の一部を載置する必要がある、かつ、書棚間の隙間を閉塞させるための連結部材が必要となるといった大掛かりなものであった。

このように、特許文献 1、特許文献 2 のいずれにおいても、分離した書棚の一方側を机上に配置させる大掛かりなものである。

50

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特許第5421308号公報

【特許文献2】特許第5806182号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明は、机と書棚を組み合わせて使用する組み合わせデスクに係り、簡単な構成で、書棚を独立して使用することも、デスクと書棚を組み合わせて使用することもでき、かつ、使い勝手がよい組み合わせデスクを提供することを課題とするものである。

10

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、前記課題を解決するために第1の手段として、主に机と書棚と側板からなる組み合わせデスクの机は少なくとも天板を有し、書棚は机天板の高さと同じ高さに設定される書棚天板を有し、側板は、書棚天板の上方の左右側方寄りそれぞれに設置され、書棚天板上方で書棚の左右の側板とされる形態と、書棚から取り外され、机の天板上方で机の側板として設置される形態とに選択可能な構成とした。

【0008】

次に第2の手段として、前記第1の手段として構成したところに加え、机と書棚は、それぞれ天板上方に延出する背面パネルを備え、側板は、該背面パネルに連結されるとともに、机あるいは書棚の天板と連結され固定される構成とした。

20

【0009】

次に第3の手段として、前記第2の手段として構成したところに加え、机と書棚のそれぞれの背面パネルと側板の上端面は、略同じ高さになるように設定される構成とした。

【0010】

次に第4の手段として、前記第1の手段、あるいは第2の手段、あるいは第3の手段として構成したところに加え、書棚の側板は、前後方向に延びる水平部材を備え、水平部材にオプション部材を吊り懸け可能な構成とした。

【発明の効果】

30

【0011】

第1の手段として構成したところによると、書棚の側板を取り外して、机の側板として使用できるので、棚板を取り外した側の側面を、側板を設置していない机の側面に沿わせると、それぞれの天板の高さが同じに設定されているので、机の机上面を書棚の机上面と合わせて広く使用することができる。

また、書棚から取り外した側板は、机の側板として使用できるので、側板の収納場所を別途用意する必要がないばかりか、机の机上の側板として設置できるので、机に囲まれ感を付与することが可能である。

【0012】

第2の手段として構成したところによると、第1の手段の効果に加え、書棚にも背面パネルを装備し、側板は、机あるいは書棚の天板と、机あるいは書棚の背面パネルと天板に連結されるので、側板の底面部と立直部の双方で固定でき、側板をしっかりと固定することができる。

40

【0013】

第3の手段として構成したところによると、第2の手段の効果に加え、机と書棚のそれぞれの背面パネルと側板の上端面は、略同じ高さになるように設定されるので、机の側面に、側板を取り外した書棚側面が沿うように設置した場合、机の側面に、書棚正面が沿うように設置した場合した場合のいずれの場合においても、背面パネルと側板の上端面が略同じ高さになるので体裁よく組み合わせデスクが使用できる。

【0014】

50

第４の手段として構成したところによると、側板の水平部材にオプション部材が吊り懸け可能であるため、組み合わせデスクの側面部に、オプション部材である収納棚や収納ボックスなどを設置することができるため、デスクの利用者に近い位置でオプション部材を利用できるので使い勝手がよい。

【図面の簡単な説明】

【００１５】

【図１】組み合わせデスクの基本形態の斜視図

【図２】組み合わせデスクの第２形態の斜視図

【図３】組み合わせデスクの第３形態の斜視図

【図４】組み合わせデスクの第４形態の斜視図

10

【図５】机本体の斜視図

【図６】書棚の斜視図

【図７】机背面パネルの斜視図

【図８】側板の斜視図

【図９】フックの使用例を示す断面図

【図１０】オプション部材の使用状態の斜視図

【図１１】第２形態の六面図

【図１２】第４形態の六面図

【図１３】側板を設置した書棚の六面図

【図１４】机背面パネルのその他の実施例を示す斜視図

20

【図１５】その他の実施例の机背面パネルを組み合わせた組み合わせデスクの斜視図

【図１６】その他の実施例の机背面パネルを組み合わせた組み合わせデスクの六面図

【発明を実施するための形態】

【００１６】

主に机と書棚を組み合わせて使用する組み合わせデスクに係り、分割した書棚を移動させるような大掛かりな構成ではなくとも書棚を独立して使用することや、デスクと書棚を組み合わせて使用することができ、かつ、使い勝手がよい組み合わせデスクを実施例に基づいて以下に説明する。

【実施例１】

【００１７】

30

第１実施例を、添付図面に基づいて詳述する。

図１～図４において、符号１は机本体を示し、符号３は書棚を示し、符号４は、机背面パネルを示し、符号５は、側板を示し、符号１００は、主に机本体１と書棚３と側板５からなる組み合わせデスクを示している。

【００１８】

図５に示すように、机本体１は天板本体部１０と、天板本体部１０の左右端部側に連結ネジにて連結された左右脚体２、２より構成されている。

天板本体部１０は、主に左右方向に長い長方形板状の机天板１１と、机天板１１下面部に配置される左右の引き出しを有する引き出しユニット１２で構成されている。

【００１９】

40

左右脚体２、２は対向した対称形に形成されているので、一方側のみ説明する。

右側脚体２は、前後に離間して配置する棒状の前支持脚２１、後支持脚２２と、前支持脚２１、後支持脚２２の上部で、前支持脚２１と後支持脚２２を連結する脚体上部補強材２２１、前支持脚２１と後支持脚２２の下部で、前支持脚２１と後支持脚２２を連結する脚体下部補強材２２２で構成されている。

【００２０】

そして、左右脚体２、２は、前記左右天板側板１２、１２の側面にネジ止め固定される。

また、左右脚体２、２間を左右方向で連結する棒状の横補強材２３が、左右脚体２、２の下部に配置され、左右脚体２、２間の後方部を左右方向で連結している。

50

さらに、背板 2 4、2 4 が、後支持脚 2 2、2 2 間であって、机天板 1 1 の下面付近と、後支持脚 2 2 の中間高さ付近に設置される。

背板 2 4 は、縦断面で縦長長方形に形成され、後支持脚 2 2、2 2 の内面間に架け渡される長さに設定される板状なものである。

【0021】

尚、背板 2 4 はネジにて左右脚体 2、2 に着脱自在に固定されているもので、取り外して後述する机背面パネルに設置することができる。

また、背板 2 4 は、コンセント 2 4 a が設置されたものと、コンセントが設置されていないものが用意され、コンセント 2 4 a の使用状況に合わせて、机天板 1 1 の下面付近と、後支持脚 2 2 の中間高さ付近で設置場所が設定できる。

机天板 1 1 の下面付近にコンセント 2 4 a 付きの背板 2 4 を設置しても、引き出しの背面側と背板 2 4 間に空間が設けられているため、コンセントを使用することができる。

【0022】

書棚 3 は、図 6 に示すように、主に左右の書棚脚体 3 0、3 0 と、左右の脚体 3 0、3 0 を左右方向で連結する棚板 3 1、3 1 と、左右の脚体 3 0、3 0 の上面に設置される書棚天板 3 2 と、天板 3 2 の後端部で上方に延伸する書棚背面パネル 3 3 で構成される。

【0023】

書棚脚体 3 0、3 0 は対向した対称形に形成されているので、一方側のみ説明する。

書棚脚体 3 0 は、棒状の前支持フレーム 3 0 1 と、前支持フレーム 3 0 1 の後方に離間して配置され、前支持フレーム 3 0 1 より上方に延伸した長さの後支持フレーム 3 0 2 と、前支持フレーム 3 0 1 の上部と後支持フレーム 3 0 2 の中間部付近で、前支持フレーム 3 0 1 と後支持フレーム 3 0 2 を連結するフレーム上部補強材 3 0 3、前支持フレーム 3 0 1、後支持フレーム 3 0 2 の下部で、前支持フレーム 3 0 1 と後支持フレーム 3 0 2 を連結するフレーム下部補強材 3 0 4 で構成されている。

【0024】

そして、後支持フレーム 3 0 2、3 0 2 間を左右方向で連結するフレーム横補強 3 0 5、3 0 5 が、後支持フレーム 3 0 2 の下部と後支持フレーム 3 0 2 の上端部に配置され書棚脚体 3 0、3 0 の後方部を左右方向で連結している。

また、書棚脚体 3 0、3 0 間に板状の棚板 3 1、3 1 が前支持フレーム 3 0 1 の下部と中間部高さに配置され、棚板 3 1、3 1 で書棚脚体 3 0、3 0 の前方部、後方部を左右方向で連結している。

フレーム横補強 3 0 5 は四角パイプ状のものであって、左右の両端部で、四角を形成する背面側の一辺が延伸突出しており、該突出片が後支持フレーム 3 0 2、3 0 2 の背面側に接し、フレーム横補強 3 0 5 の延伸方向を軸芯として回転することを防止している。

【0025】

次に、前支持フレーム 3 0 1、3 0 1 の上端面と、フレーム上部補強材 3 0 3、3 0 3 の上面に、書棚天板 3 2 に載置連結される。

書棚天板 3 2 は板状矩形のもので、前端は、前支持フレーム 3 0 1、3 0 1 より若干前方に飛び出し、後ろ端は後支持フレーム 3 0 2、3 0 2 に前端面に沿い、左右幅は、前支持フレーム 3 0 1、3 0 1、後支持フレーム 3 0 2、3 0 2 の左右外側面とほぼ面一となる大きさに設定され、上面の高さは、机本体 1 の机天板 1 1 と上面と同じ高さになるように設定される。

【0026】

そして、書棚水平部材 3 0 6、3 0 6 が、書棚天板 3 2 の後方と、書棚天板 3 2 の上方の後支持フレーム 3 0 2、3 0 2 間に設置される。

書棚水平部材 3 0 6 は、前述の機の背板 2 4 と同じ縦断面形状で縦長長方形に形成され、後支持フレーム 3 0 2、3 0 2 の内面間に架け渡される長さに設定される板状なものである。

書棚天板 3 2 の上方の書棚水平部材 3 0 6 は、書棚天板 3 2 と後支持フレーム 3 0 2 の上端間の中間部付近の高さに配置される。

【0027】

そして、書棚水平部材306、306は、図6に示すように、下側の書棚水平部材306の上端と、上側の書棚水平部材306の下端間に空間が設けられ、上側の書棚水平部材306の上端と、後支持フレーム302、302間を連結する上端部側のフレーム横補強305の下端間に空間が設けられる。

尚、本実施例においては、後支持フレーム302が書棚天板32の上方まで延伸し、書棚背面パネル33を一体的に形成しているが、後支持フレーム302の書棚背面パネル33部を分割し、書棚脚体30と書棚背面パネル33を分割構成としても構わない。

【0028】

机背面パネル4は、図7に示すように、左右に離間して配置される一対の棒状のパネル縦フレーム41、41と、パネル縦フレーム41、41間を左右方向で連結するパネル横フレーム42が、パネル縦フレーム41、41の上部に配置され、門型にパネルフレーム体4aが形成される。パネル横フレーム42は四角パイプ状のものであって、左右の両端部で、四角を形成する背面側の一边が延伸突出しており、該突出片がパネル縦フレーム41、41の背面側に接し、パネル横フレーム42の延伸方向を軸芯として回転することを防止している。

尚、パネル縦フレーム41、41は、机本体の脚体2、2間と同じ寸法で離間して配置され、パネル縦フレーム41は、書棚3の後支持フレーム302と同じ高さに設定される。

そして、前述の機の背板24と同型に形成された、背面パネル水平部材43が、書棚3の書棚水平部材306と同じ高さとなるようにパネル縦フレーム41、41間に設置される。

【0029】

このように形成された机背面パネル4は、机本体1の背面に、後支持脚22に設けられた螺孔と、パネル縦フレーム41に設けられた貫通孔を使用してネジにて着脱自在に連結される。

また、パネル縦フレーム41、41は、机本体の脚体2、2間と同じ寸法で離間して配置されるから、前記機の背板24が机本体1から取り外され、パネル縦フレーム41、41間に設置することができる。

このようにすると、机背面パネルを設置した時には、背板24が机本体1の奥側に配置されることになるから、足元空間を広くすることが可能である。

【0030】

尚、背板24は、コンセント24aが設置されたものと、コンセントが設置されていないものが用意されるが、コンセント24aの使用状況に合わせて、机天板11上面より上方にコンセントが露呈した位置と、パネル縦フレーム41の下端と机天板11間の略中間高さ付近の位置で設置場所を設定し、選択可能としている。

机天板11の下面付近にコンセント24a付きの背板24を設置しても、引き出しの背面側と背板24間に空間が設けられているため、コンセントを使用することができる。

【0031】

側板5は、図8に示すように、前後に離間して配置される一対の棒状の側板縦フレーム51、51と、フレーム51、51間を前後方向で連結する側板水平フレーム52、52が、フレーム51、51の上部と下部に配置され、四方枠状に側板フレーム体5aが形成される。

尚、側板縦フレーム51、51は、側板縦フレーム51、51の外側面側間の寸法が書棚3の書棚天板32の前後方向と同じ寸法となるように離間して配置され、高さは、書棚天板32の上面と、書棚3の後支持フレーム302の上端までの高さと同じ高さに設定されている。

【0032】

そして、側板水平部材53が、側板縦フレーム51、51間であって、後述する側板5を書棚3に取り付けた状態で書棚3の書棚水平部材306と同じ高さとなるように設置さ

10

20

30

40

50

れる。

側板水平部材 5 3 は、前述の机の背板 2 4 と同じ縦断面形状で縦長長方形に形成され、側板縦フレーム 5 1、5 1 の内面間に架け渡される長さに設定される板状なものである。

側板水平部材 5 3 は、下側の側板水平フレーム 5 2 の上面と、側板水平部材 5 3 の下面間に空間が設けられ、上側の側板水平フレーム 5 2 の下面と、側板水平部材 5 3 の上面間に空間が設けられる。

【0033】

以上のように構成される組み合わせデスク 100 の組み合わせ方法について説明する。

図 1 に示すのが基本形態であって、机背面パネル 4 が連結された机本体 1 の一方側面に書棚 3 の側面が沿うように配置され、2 体用意される側板 5 が書棚 3 の書棚天板 3 2 の両側端に設置され、机本体 1 と書棚 3 を個別に使用するものである。

【0034】

書棚 3 に側板 5、5 が設置された状態では、側板フレーム体 5 a の下面が、書棚天板 3 2 の上面に載置し、側板 5 の後側の側板縦フレーム 5 1 の後面と、書棚 3 の後支持フレーム 3 0 2 の前面が当接した状態で、ネジにて固定される。

そのため、側板 5 の下側の側板水平フレーム 5 2 には、鉛直方向に貫通する貫通孔 5 2 a が所定の位置に設けられ、後側の側板縦フレーム 5 1 には、前後方向に貫通する貫通孔 5 1 a が所定の位置に設けられている。

そして、書棚天板 3 2 の上面の両側寄りに、前記貫通孔 5 2 a に対応した螺孔 3 2 a、3 2 a が設けられ、後支持フレーム 3 0 2 には、前記貫通孔 5 1 a に対応した螺孔 3 0 2 a が設けられている。これらの螺孔は、不使用時にはキャップで閉塞されている。

【0035】

次に基本形態から、机の天板を書棚の天板と合わせて広く使用する第 3 形態について説明する。

基本形態から、机本体 1 に面した側の側板 5 の書棚 3 と固定するためのネジを外し、側板 5 を書棚 3 から分離する。

そして、図 3 に示すように分離した側板 5 を、机本体 1 の書棚 3 側と対向側の机天板 1 1 上に設置する。

机天板 1 1 上に側板 5 が設置された状態では、側板フレーム体 5 a の下面が、机天板 1 1 の上面に載置し、側板 5 の後側の側板縦フレーム 5 1 の後面と、パネル縦フレーム 4 1 の前面が当接した状態で、ネジにて固定される。

そのため、机天板 1 1 の上面の両側寄りに、側板 5 の貫通孔 5 2 a に対応した螺孔 1 1 a、1 1 a が設けられ、パネル縦フレーム 4 1 には、側板 5 の貫通孔 5 1 a に対応した螺孔 4 1 a が設けられている。これらの螺孔は、不使用時にはキャップで閉塞されている。

【0036】

第 3 形態では、机天板 1 1 と書棚天板 3 2 は同じ高さに設定されているので両天板を連続して使用することができ執務スペースを広く取ることができる。

そして、机本体 1 に側板 5 が設置されるので、執務者には、適度な目隠しパネルが設置された状態となり集中力を高め易い。

また、側板 5 の側板水平フレーム 5 2 には後述するオプション部材を吊り懸けできるので、デスクの使用者に近い位置でオプション部材を利用できることになり使い勝手がよい。

このように、側板 5 を移動するだけの簡単な作業で第 3 形態とすることができる。

さらに、机背面パネル 4 と書棚背面パネル 3 3 と側板 5 の上端高さは、ほぼ同じとなるように設定されているから、オプション部材を同じ高さで使用できるので使い勝手がよいばかりか、体裁よく組み合わせデスクが使用できるので組み合わせデスク 100 を設置した部屋がスッキリとした印象を与えることができる。

当然ながら、側板 5、5 は書棚 3 から取り外し、机本体 1 の机天板 1 1 上の左右の両側に設置することも可能である。

【0037】

次に第2形態について説明する。

第2形態は、机背面パネル4が連結された机本体1の一方側面に書棚3の正面が沿うように配置され、2体用意される側板5が書棚3の書棚天板32の両側端（机本体1の前後方向）に設置され、机天板11と書棚天板32を連続して使用するものである。

尚、第2形態で、書棚3の幅寸法は机天板11の前後寸法とほぼ同じに設定しているため、机本体1の正面側に位置する側板5は机天板11より前方に突出することがない。

そして、この状態では、机本体1の正面側に位置する側板5の側板水平フレーム52に、正面側を向いている側からオプション部材を吊り懸けすると、執務者側にオプション部材を設置できるので、オプション部材の使い勝手がよい。

【0038】

次に第4形態について説明する。

第4形態は、第2形態の机本体1の正面側に位置する側板5の書棚3と固定するためのネジを外し、側板5を書棚3から分離する。

そして、図4に示すように分離した側板5を、机本体1の書棚3側と対向側の机天板11上に設置する。

第4形態では、机天板11と書棚天板32の両天板を連続して使用することができ、机の正面側の側板5が書棚3に設置されないため、第3形態に比べ天板の執務スペースが使い易い。

【0039】

そして、側板5は、第3形態と同様に机本体1に側面に設置されるので、執務者には、適度な目隠しパネルが設置された状態となり集中力を高め易い。

また、側板5の側板水平フレーム52には後述するオプション部材を吊り懸けできるので、デスクの使用者に近い位置でオプション部材を利用できることになり使い勝手がよいのも第3形態と同様である。

【0040】

尚、第4形態で、書棚3の天板の幅寸法は机天板11の前後寸法とほぼ同じに設定しているため、机天板11の側面がそのまま延伸したように書棚天板32配置されることになり、両天板面を一体的に使用することができるので使い勝手がよい。

また、組み合わせデスク100の平面視で略長方形となり、外形に凹凸が少ないから組み合わせデスク100を設置する部屋のレイアウトに合わせやすい。

さらに、机背面パネル4と書棚背面パネル33と側板5の上端高さは、ほぼ同じとなるように設定されているから、オプション部材を同じ高さで利用できるため使い勝手がよいばかりか、体裁よく組み合わせデスクが使用できるので組み合わせデスク100を設置した部屋がスッキリとした印象を与えることができる。

このように、側板5を移動するだけの簡単な作業で第4形態とすることができる。

【0041】

オプション部材は、フック6を基本部材として、図9に示すようにフック6を側板水平部材53の上方から吊り懸ける。

そして、該フック6を収納ボックス61や棚板62と組み合わせることや、板状パネルに複数の小径貫通孔63a・・・を規則的に設けたユーティリティーボード63と組み合わせ、これらを側板水平部材53に吊り懸けて使用することができる。また、フック6の下部を鉤状として、引っ掛け具63として使用することもできる。

ユーティリティーボード63は、小径貫通孔63a・・・に線材で形成されるフック部材などを引っ掛けて使用できるものであり、組み合わせデスクの使用者が好みに応じてアレンジするスペースである。

また、オプション部材は、側板水平部材53に限らず、書棚水平部材306や背面パネル水平部材43や背板24や脚体上部補強材221にも吊り懸け可能である。

【0042】

そして、前記実施例における組み合わせデスクは、側板水平部材53と、書棚水平部材306と背面パネル水平部材43の上端面が同じ高さになるように設定されているから、

10

20

30

40

50

基本形態から第４形態に至るまで、側板水平部材５３と、書棚水平部材３０６と背面パネル水平部材４３の上端面は水平方向に連続したように並ぶので、オプション部材を同じ高さで使用することができるので使い勝手がよい。

【００４３】

図１４～図１６に示すのは、机背面パネル４の背面パネル水平部材４３をユーティリティボード６３のように複数の小径貫通孔・・・を規則的に設けたパネル４４に置き換えたもので、ユーティリティボード６３と同様に、小径貫通孔に線材で形成されるフック部材などを引っ掛けで利用できるものであり、組み合わせデスクの使用者が好みに応じてアレンジすることができる。

【産業上の利用可能性】

10

【００４４】

以上のように、本発明は、側板を書棚や机に選択的に移設可能であるから、組み合わせデスクのレイアウトを多彩にすることができ、組み合わせデスクを設置する部屋のレイアウトに合わせて、使い勝手のよい机と書棚の組み合わせが可能であるから、家庭等の勉強部屋や書斎等の執務空間で広く利用することができる。

【符号の説明】

【００４５】

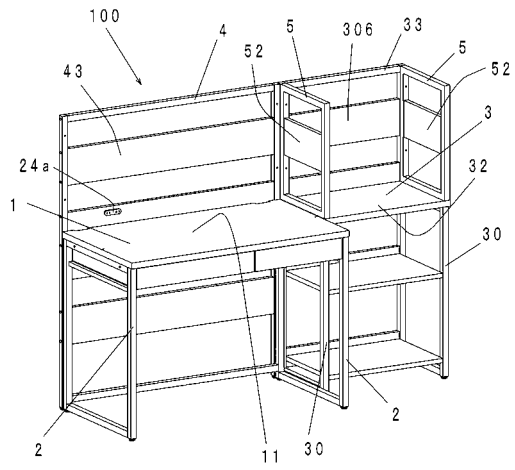
１００	組み合わせデスク
１	机本体
１１	机天板
１１ａ	螺孔
３	書棚
３０	書棚脚体
３０１	前支持フレーム
３０２	後支持フレーム
３０２ａ	螺孔
３０６	書棚水平部材
３２	書棚天板
３２ａ	螺孔
３３	書棚背面パネル
４	机背面パネル
４１	パネル縦フレーム
４１ａ	螺孔
４２	パネル横フレーム
４３	背面パネル水平部材
５	側板
５１	側板縦フレーム
５１ａ	貫通孔
５２	側板水平フレーム
５２ａ	貫通孔
５３	側板水平部材
６	フック

20

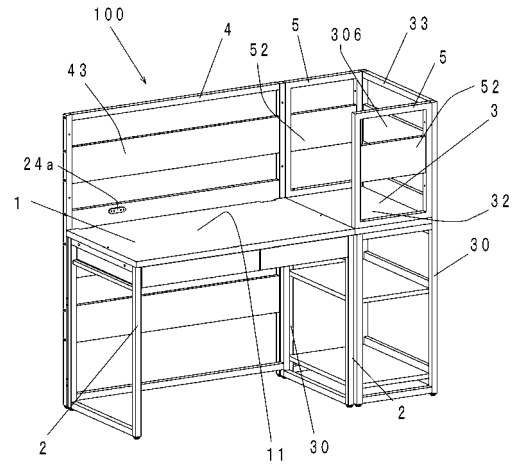
30

40

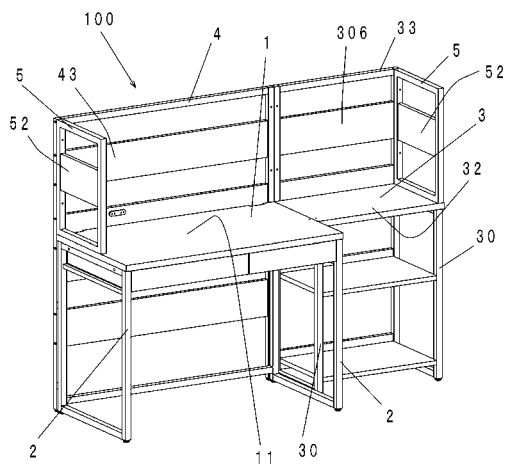
【図 1】



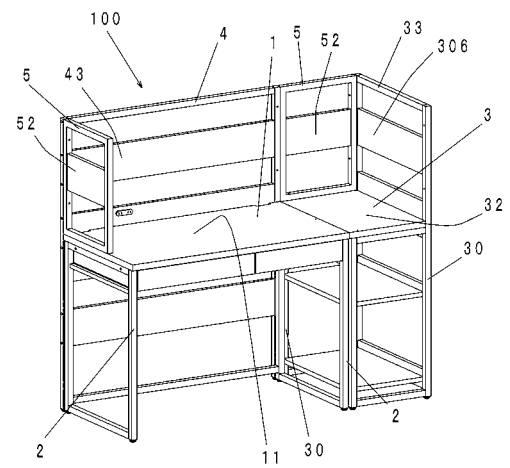
【図 2】



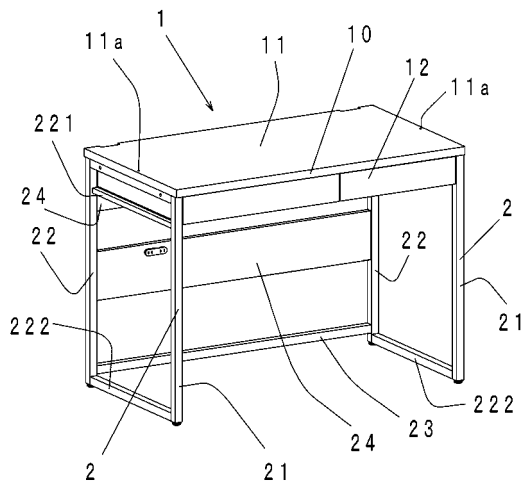
【図 3】



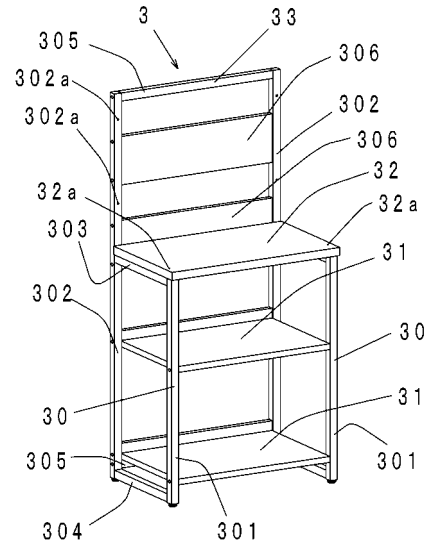
【図 4】



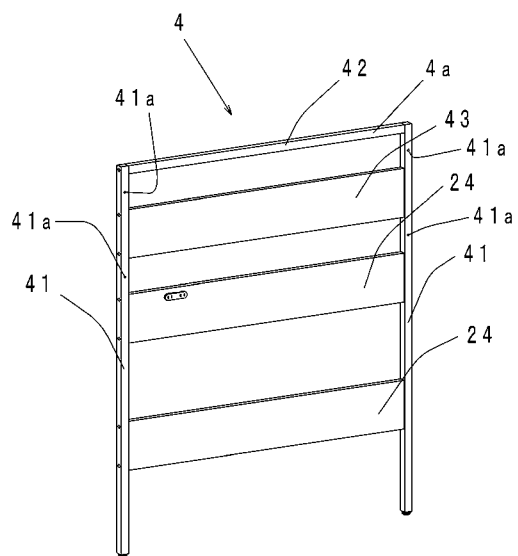
【図 5】



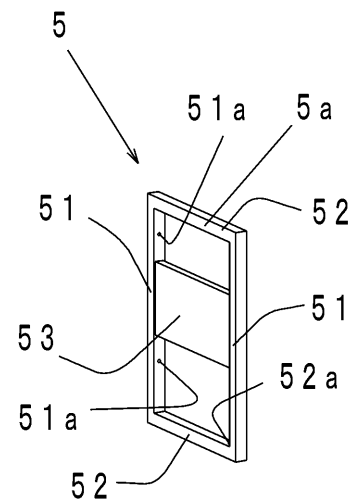
【図 6】



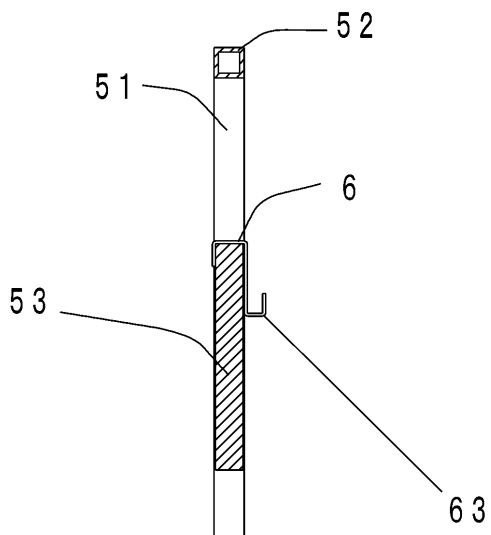
【図 7】



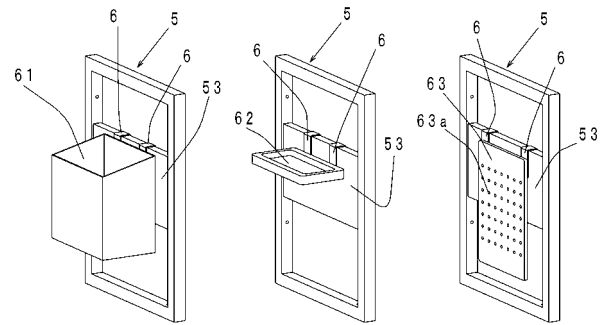
【図 8】



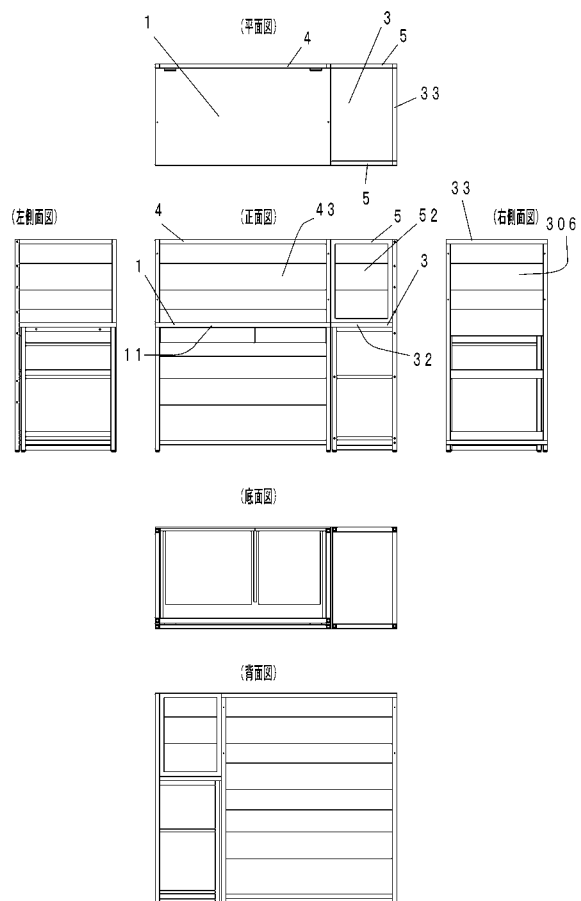
【図 9】



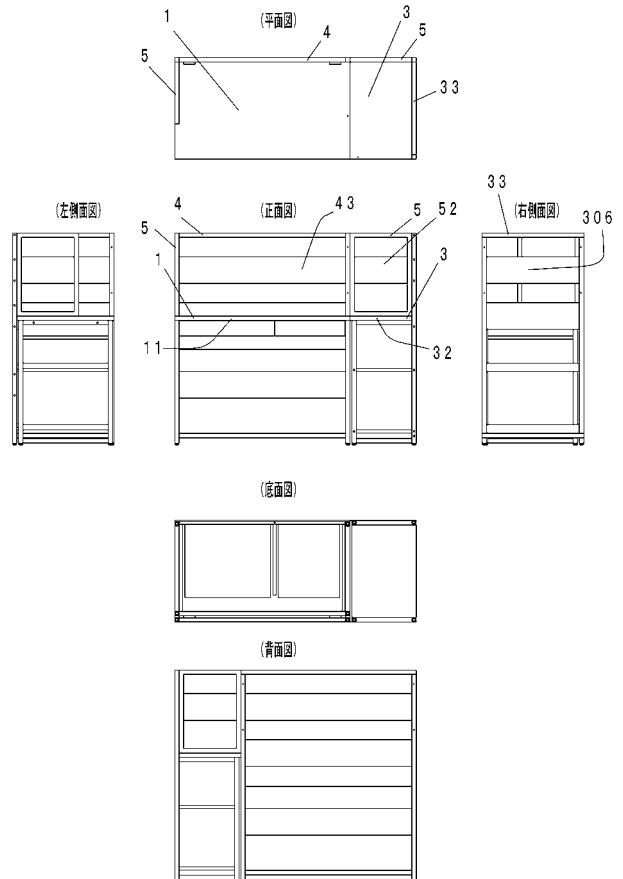
【図 10】



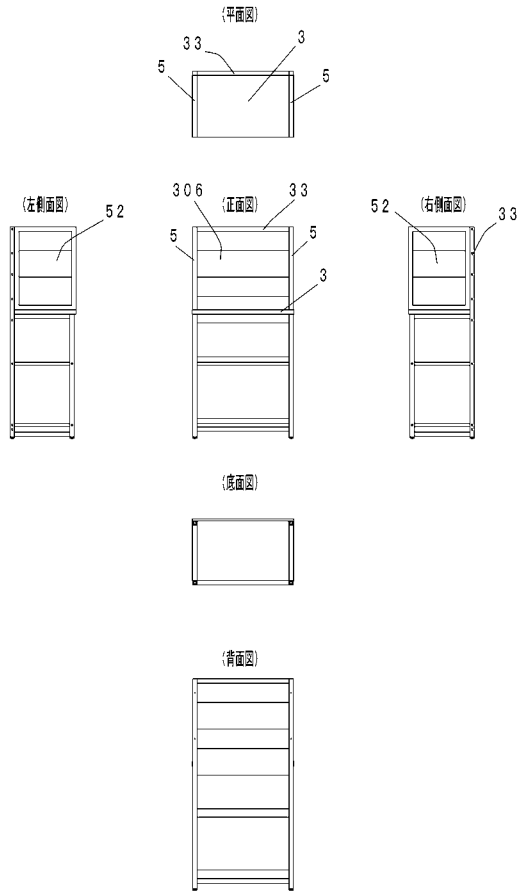
【図 11】



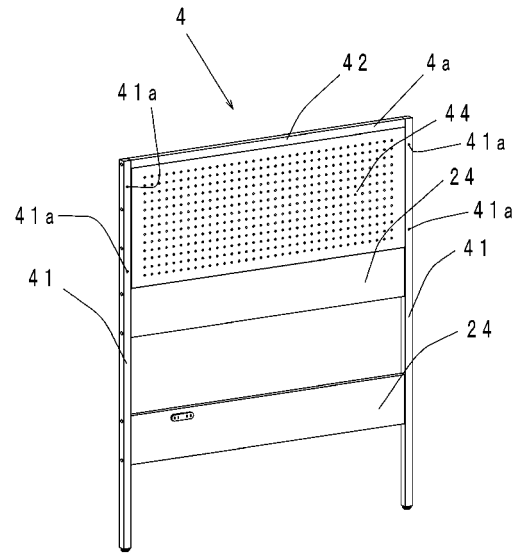
【図 12】



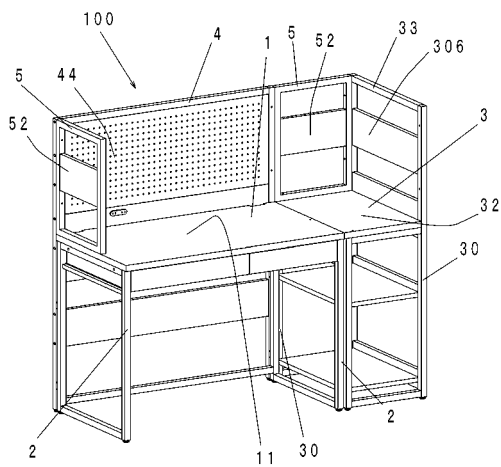
【図 13】



【図 14】



【図 15】



【図 16】

